

論文審査の結果の要旨

2022年7月15日

申請者： 姚 一鳴

論文題目： 後発家電メーカー美的集団の競争優位に関する分析
—内部及び外部成長戦略からのアプローチ—

本論文は、中国の大手家電メーカーである美的集団が競争優位性を獲得した事例につき、同社が行なってきた内部成長戦略と外部成長戦略の観点から検証を行ったものである。先行する海外競合他社から見れば、後発組である美的集団が様々な戦略を経て、Fortune Global 500 にランクインするまで成長を遂げたことは、中国政府の積極的な後押しによる恩恵とみられる点を差し引いたとしても、美的集団の内部成長と外部成長という両面の戦略バランスが優れていたことが、同社の持続的な成長につながったと分析し、美的集団が得意とする製品多様化戦略、さらに国内外の M&A 戦略 が成長へと結実したことは各事例を通して検証を行った。

ペンローズは、企業の成長を考察する際、内部資源と外部機会の有効利用が必要と主張した。すなわち、企業が自ら入手した資源、および自社の生産計画や拡張計画の遂行のために市場で獲得すべき資源を考慮に入れると同時に、企業成長にとっての外部機会を重要視し、外部の影響が企業の成長の方向性を決めるのに決定的な要因になる可能性がある」と強調された。

本論文は、上記のペンローズの分析モデルに基づき、美的集団の成長要因の検証が行われたことにその有効性が認められる。特に以下の学術研究の独創性と発展性に貢献したことが評価される。まずわずか数十年で小さい町工場から世界有数の家電メーカーにまで成長した美的集団の成長過程を考察すること自体が重要な意味を持つ。また、美的集団が企業内の経営資源を活用し、技術開発、製品開発や販路の拡大などを図ってきた戦略を詳細に分析すると同時に、如何に外部の経営資源、特に中国国内の同業の買収と海外の家電メーカーの買収を通して、企業の多角化戦略、競争戦略を実現させてきたことを検証したことに意味がある。そして、検証の成果は、今後グローバル家電産業の発展に多くの示唆が与えられたことも評価される。

一方、論証に使われた各種データや情報は、上場企業として美的集団が公表されたものであり、論文の展開に必要な情報が活用されたと言えるが、M&A 戦略に対する財務的な意義付や課題に関する分析・探究は不十分に映ってしまう点がある。ただし、これは学位請求論文の審査基準を満たさないことを意味するものではなく、より完成度の高い論文にするための審査委員の意見である。最後に、本論文は学位請求論文レベルに達し、博士学位授与に値すると審査委員の意見が一致した。

審査員（主査） 葉 剛

審査員（副査） 染谷 芳臣

審査員（副査） 袁 福之